会員の皆様へ

関西自然保護機構と大阪自然史センターとの合流に際して

関西自然保護機構会長　千地　万造

関西自然保護機構（以下KONC）は，1978年に発足し，研究者を中心とした自然保護団体，自然保護・環境保全に関する調査・提言・指導・助成団体として，全国的にもユニークな活動を行ってきました。しかし「自然保護」という考え方がより社会に浸透し，自然保護が社会的な要請になっていくとともに，研究者に基盤を置いたKONCの活動や，提言・指導などの基本的な活動は，より幅広く行政や諸団体も行うようになり，KONCの活動の意味が薄れて見えるようになりました。そのため，近年は会員数の伸びがあまりなく，毎年厳しい財政状況が続くという状態になっていると認識しています。

しかし研究を基礎とした自然環境保護活動の大切さは現在も変わりはなく，KONCの活動を発展させていくことが必要であることは言うまでもありません。そこで2004年に事務局を大阪市立大学植物生態学研究室から滋賀県の植物社会学研究所に移転し，その前後から，理事会において根本的な会の改革の議論を始めました。理事会ではいくつかの選択肢をもって議論を重ねてきましたが，2006年の総会において提案をしたように，特定非営利活動法人大阪自然史センター（以下「自然史センター」と略す）と合流することを最善の案と考え，自然史センターとの意見交換なども行い，最終的に2007年6月の総会決定として，合流を目指して，最終的な協議に入ることを了承していただきました。

この間の議論では，自然史センター側から，合流する場合のKONCの組織や活動に対する意見を受け，またKONCからも，合流するための条件を自然史センターに投げかけるなどのやり取りをしました。それらの結果，合流に当たって，KONCの組織的な，あるいは予算執行方法などについては多少の変更はあるものの，会の目的，実施事業，決定権などについてはKONCの独自性を保ち，従来の活動スタイルを維持できると判断し，またその体制の中で改めて活動内容の変革や強化を図ることを目指して，理事会として合流に踏み切ることを結論としました。

自然史センターには，事業組織のひとつとして大阪市立自然史博物館友の会があり，この友の会と並列の状態で自然史センターの中に入る事になります。この新しい環境の中では，自然史センター全体の理事会の元にKONCの組織を置くため，組織的にはやや複雑になり，経費もセンター管轄のものとして一本化されますが，会費はKONCの事業のためだけに使用し，また事業を行うことについての独自性は保証されており，これまでのKONCの基本的な活動である会誌の発行，シンポジウムやセミナーなどの実施，研究助成の実施，独自の研究や資料収集などは，これまでと同じように行ないます。なお，KONCの事務は自然史センターが担当します。

以上のような合流により，自然環境保全に関する研究の結集と活動を中心としたKONCの事業と，自然史博物館友の会の熱心な自然志向の高い市民団体との両者の良さを合わせ，自然観察，研究から自然保護までを含んだ，幅広い活動組織として発展していくことを目指しています。新しく生まれ変わるKONCに対して，会員の皆様からのご協力と積極的な参加を期待しています。　（2007年11月）